

# 平成30年度 施策評価シート

基本目標	Ⅱ	地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	210	多様な都市機能が調和したまちをつくる
施策	211	職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める
施策の目標	多様な都市機能が調和したまちとなるため、職・住・学・遊の調和する総合的・計画的な土地利用が進み、地域の特性に応じたまちづくりのルールが確立することで、誰もが快適に活動をしています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域の特色を活かしたまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	-				50.0%					53.0%
実績	47.2%									
指標名	地区整備計画区域面積									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	-				97.0ha					99.0ha
実績	85.9ha									

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
地域の特性等を踏まえたまちづくりを実現するためには、まちづくりのルールづくりや地域の取組など、地道な活動を重ねていく必要があり、効果がすぐに表れるものではなく、長期的な視点で計画的継続的に進める必要がある。	H28	451
	H29	480
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	地域の特色を活かした望ましいまちにするためには、良好な都市環境の形成に関する誘導など、継続的な取組が必要である。

## 4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
○		(2) 現状維持とする。
		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
調和したまちを実現するには、長期的な視点で計画的継続的に進める必要がある。		
【今後の具体的な方針】		
引き続き適正な民間開発等の指導・誘導を行うとともに、区民のまちづくりへの理解を深めていく中で、地域ごとの特性に応じたまちなみを形成していく。		

